

個別施策6 交通環境の整備

取組状況・成果

【自転車走行空間の整備】

- ・自転車走行空間の整備は、早大通りの早大正門前から外苑東通りまでの区間において、歩道改修にあわせて自転車走行空間を整備しました。
- ・平成20年度から平成29年度までを計画期間とした現行の自転車等に関する総合計画について、社会情勢の変化などを踏まえ、中間見直しを平成25年度に行い、自転車利用のルール・マナーや、自転車走行環境の整備等を改訂しました。

【自転車等の適正利用の推進】

- ・新たな駐輪場を高田馬場駅と中井駅に整備しました。また、新大久保駅自転車等駐輪場を改修し、収容台数を増やしました。さらに、新たな整備手法として、西新宿駅、若松河田駅、新宿駅西口周辺などで、民間事業者を活用した駐輪施設の整備を行いました。平成27年度までには、48箇所の駐輪場の整備をしています。また、撤去した自転車を収容する自転車保管場所の整備を行い、収容台数の増加を図るとともに、整理指導員による「声掛け」等を実施し、自転車利用の適正化と駐輪施設の利用向上を図り、放置自転車数は減少しています。

【駐車場整備事業の推進】

- ・新宿区駐車場整備計画を平成23年に改定し推進しています。また、新宿駅周辺において地区の特性に応じた駐車施設の整備基準（地域ルール）を策定し施行しています。

【鉄道施設の整備推進】

- ・中井駅南北自由通路は、平成24年度に着手し予定どおり進捗しており、平成28年度に完了します。

現状・課題

【自転車走行空間の整備】

- ・区道の多くは幅員が狭いことから、限られた空間でどのように自転車走行空間を確保していくかが課題です。また、整備にあたっては都道など他の道路とのネットワーク化を図る必要があります。
- ・人々の活動を支えるための利用しやすい公共交通の整備や自転車等（自転車、原動機付自転車及び自動二輪車）の適正利用を支える都市環境の整備が求められています。

【みんなで進める交通安全】

- ・区内の交通事故件数は依然として高い水準にあり、道路交通環境の安全性向上が求められています。また、高齢社会の到来は、高齢者が交通事故の被害者としてだけでなく、加害者にもなるという問題を生み出しています。

【駐車場整備事業の推進】

- ・地域の特性、まちづくりと整合した駐車場整備事業の推進が必要です。

【鉄道施設の整備推進】

- ・中井駅付近では南北自由通路の整備を進めている一方、他の地域では朝の通勤時間帯を中心とした踏切による交通遮断、地域分断の解消が求められています。

（図表1：駐輪場の整備状況）

データ項目	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	備考
自転車駐輪場の整備状況（箇所数）	37/59箇所	43/59箇所	44/59箇所	44/59箇所	43/59箇所	48/59箇所	①数値は、各年度4月1日現在。 ②上段 整備箇所数/第三次実行計画での指標数（29年度末目標値） ③下段 整備駅数/第三次実行計画での指標数（29年度末目標値）
対象駐輪場 ・区設区営施設 （自転車等駐輪場、路上自転車等駐輪場、自転車等整理区画） ・民設民営施設	25/30駅	29/30駅	29/30駅	29/30駅	29/30駅	29/30駅	

新宿区の駐輪場は毎年度整備を進めており、平成27年度には計画59箇所の内48箇所で整備が進んでいます。

目指すまちの姿・状態

- ・自転車等が自由に乗り入れるための駐輪場の整備と自転車が安全に移動できる走行空間を整備することで、歩行者・自転車・自動車、それぞれが安全に安心して通行できる道路空間を創出します。
- ・利用者一人ひとりがルールを守り、マナーに気をつけることで、自転車等が自由に利用できるまちをめざします。

施策の方向性

【自転車走行空間の整備】

- ・限られた道路空間の中で路面表示を活用するなど関係機関と連携しながら自転車走行空間を確保していきます。また、都道など他の道路とのネットワーク化を図ります。
- ・自転車等の利用を支える環境を整備し、自転車等の適正利用を進めます。

【みんなで進める交通安全】

- ・自動車利用者、歩行者などあらゆる立場の人々への交通安全教育を強化します。

【駐車場整備事業の推進】

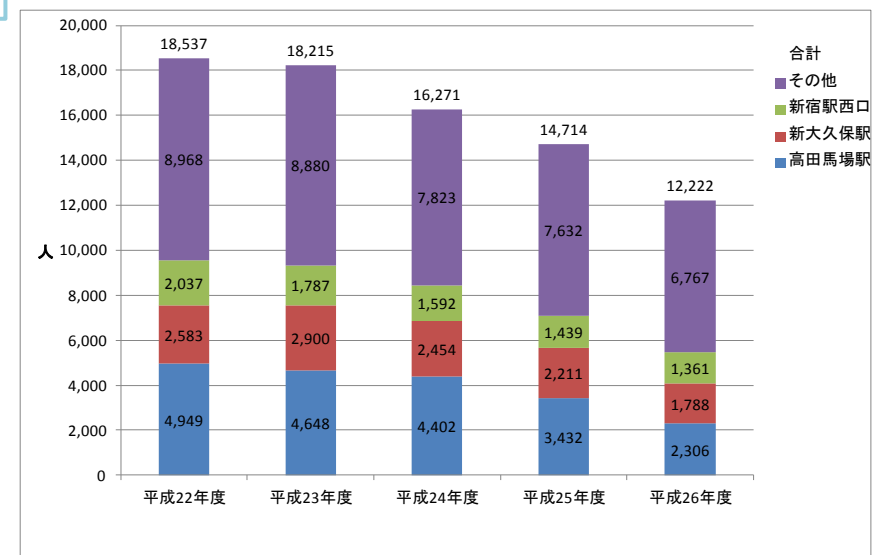
- ・適正な駐車場整備の需給を把握し、地域の特性に合わせた駐車場整備基準を定めます。

【鉄道施設の整備推進】

- ・鉄道事業による都市計画事業と調整を図りつつ交通環境の整備を促進しています。

新宿区の放置自転車撤去台数は年々減少傾向を示しています。

（図表2：主要駅の放置自転車撤去台数の推移）



資料)新宿区の概況

資料)新宿区資料